

泉区散策ガイド



泉区制30周年記念

水と緑と歴史の散歩道



水と緑と歴史の散歩道

「やすらぎとうるおいあふれる田園文化都市」をめざし、昭和61年（1986）、泉区は戸塚区から分区しました。「泉区」という名前は、泉が湧き出るように、若い活力を生み出しながら発展するようとの願いを込めて、区民からの公募により付けられました。

それから30年、相模鉄道いずみ野線・横浜市営地下鉄の延伸、環状4号線・県道横浜伊勢原線の整備、区民利用施設の充実など、この間に泉区は大きく変わりました。また、その一方で、泉区は「水と緑と人情のまち」とも呼ばれ、自然や文化、歴史も大切に育まれています。

泉区は街中に川が流れており、夏になると、和泉川では地蔵原の水辺で子どもがおたまじゃくしを追いかけて遊ぶ姿が見られます。阿久和川沿いには憩いの場「まほろば」が点在し、川を挟んだ街並みを眺めると、ほっとしたひとときを過ごすことができます。空の澄んだ日には、富士山を綺麗に見ることもできます。

また、泉区は、横浜市18区の中で、最も農地や緑に土地を利用している割合が多く、農地面積も市内1位で農業がとても盛んです。地産地消情報紙「いずみ自慢」では、区内にたくさんある直売所情報もお届けしています。

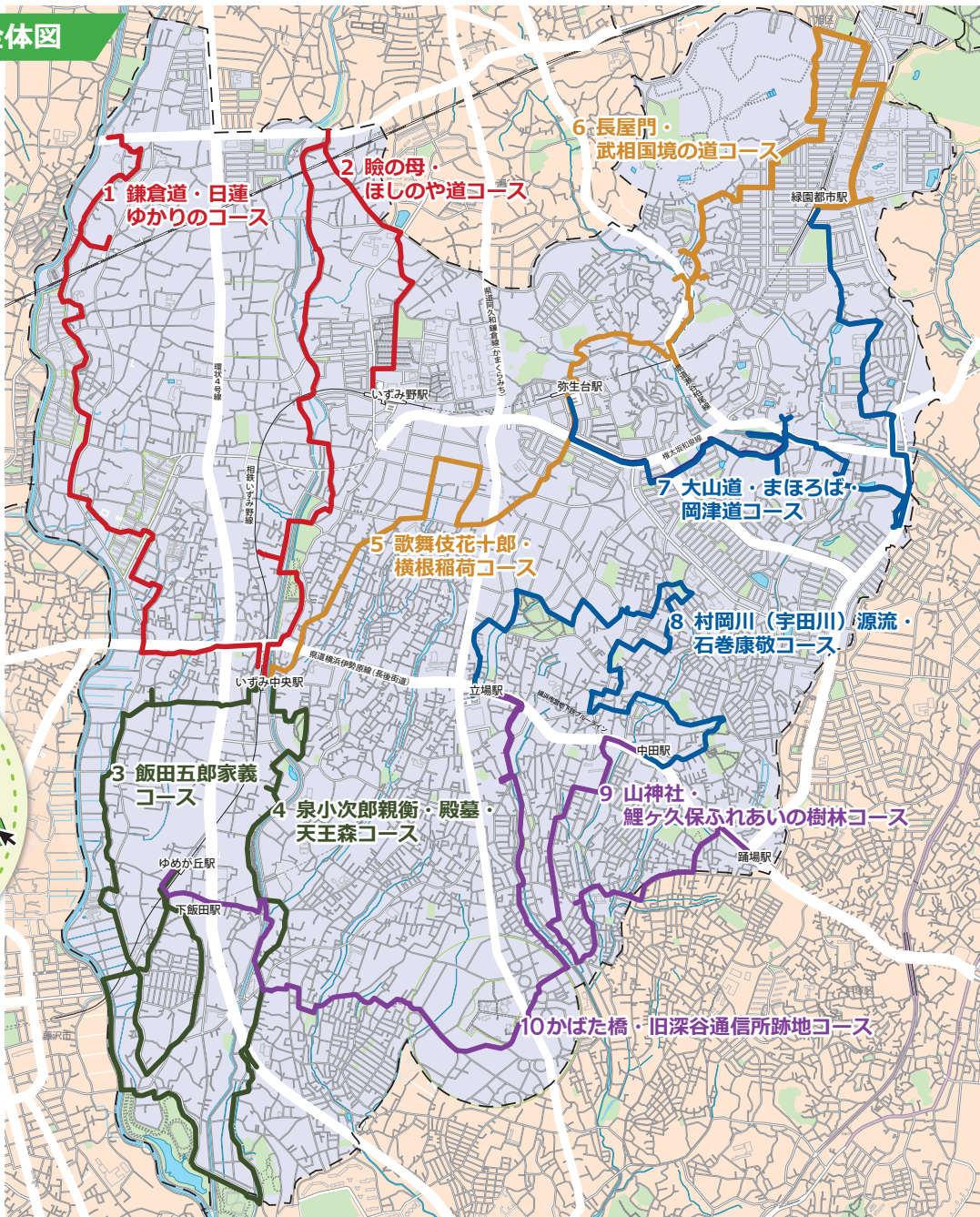
さらに泉区には、由緒ある神社・仏閣・古道が多く、鎌倉・室町・戦国・江戸時代の名残を辿ることができます。

現在、相鉄いずみ野線ゆめが丘駅・市営地下鉄下飯田駅周辺では、土地区画整理事業が進んでおり、新たな賑わいが生まれます。今後、相鉄線はJＲ・東急との直通運転を予定しています。

今回、泉区が区制30周年を迎えるにあたり、このような泉区の良さを知っていただける「泉区散策ガイド 水と緑と歴史の散歩道」（平成16年3月発行）の改定版を発行することとしました。このガイドを案内役として、泉区内を散策していただき、泉区の良さに是非触れてみてください（サイクリングにもおすすめです）。

各ページには、泉区の見どころ探しが趣味の「いっずん」がいろいろな表情で登場していますので、皆さんで楽しみながらお読みください。

散策コース全体図



この散策ガイドは各コースごとにダウンロードできます。詳しくは、[検索](#) 泉区散策ガイド



もくじ



1	鎌倉道・日蓮ゆかりのコース	P.3
2	2 ^{まぶた} 険の母・ほしのや道コース	4
3	飯田五郎家義コース	7
4	4 ^{ちかひら} 泉小次郎親衛・殿墓・天王森コース	8
5	歌舞伎花十郎・横根稲荷コース	11
6	長屋門・武相国境の道コース	12
7	7 大山道・まほろば・岡津道コース	15
8	8 村岡川（宇田川）源流・石巻康敬コース	16
9	9 山神社・鯉ヶ久保ふれあいの樹林コース	19
10	10 かばた橋・旧深谷通信所跡地コース	20
11	11 特集（泉区の古道・泉区の歴史・泉区周辺で見られる魚と鳥）、 あともがき	23～26

散策ガイドの見方

- 1 「水と緑と歴史の散歩道」改訂版は、区内全域を 10 コースに分けて、散策していただけるガイドです。
- 2 それぞれ、コース名・サブタイトル・コースの紹介・コース上の見所を載せています。
- 3 見開き状の地図に、2 コース分を載せています。コースは色別で表示し、見所は、順番に○数字で表しています。
- 4 地図上のマークは、マークの見方を参照してください。

※この散策ガイドの情報は、平成 28 年 1 月～8 月末に確認した内容を基に、地図情報は平成 27 年 12 月現在の泉区生活マップを基に作成しています。

マークの見方

散策コース	花の見どころ	桜	車に注意	バス停	名木古木
主な施設	トイレ	多目的トイレ	石造物	神社	寺院

区内散策にあたって

- 1 草花や生き物をとるのはやめましょう。
- 2 歴史的な建造物を大切にしましょう。
- 3 ごみはすべて持ち帰りましょう。
- 4 農地（田畑、果樹園、竹林）や個人宅・個人の所有地には入らないようにしましょう。
- 5 住宅街や寺社では静かに歩きましょう。



1 鎌倉道・日蓮ゆかりのコース (約5.1km)

～ 上飯田 古の街道と史跡を訪ねて ～

上飯田・下飯田・俣野から村岡・深沢・化粧坂を経て鎌倉へ通じる「鎌倉道」は、「鎌倉上の道」としてよく知られています。弘安5年(1282)、身延山を出て、生涯最後の旅に出た日蓮が、池上で入寂(※)し、荼毘に付され(※)、遺骨が身延山へ向かう途中、飯田に泊まり、その跡に本興寺が建てられたという日蓮ゆかりの道でもあります。江戸期には、江ノ島・鎌倉への参詣の道「鎌倉道(藤沢八王子道)」として、また、暮らしの道として賑わいました。この古の街道には、本興寺や飯田神社などの寺社をはじめ、史跡・石造物などが多くあり、私達に歴史を語りかけてくれます。また、せせらぎ緑道や、上飯田西公園などの憩いの場もあります。

(※) 入寂：高僧の死をいう。 荼毘に付す：火葬にする。

1 庚申塔



和泉町4730番地ガソリンスタンド前に、延宝5年(1677)と文化13年(1816)造立の庚申塔が2基あります。泉区内の石造物としては、庚申塔がおおよそ100基と最も多く、庚申信仰が盛んだったことが分かります。庚申信仰は、十干十二支の庚申の日に信仰の仲間(講)の人々が身を慎み夜を過ごすという信仰で、庚申講の人々によって建てられたのが庚申塔です。

2 中和田公園



春は満開の桜、夏は木洩れ日のさす中和田公園は、地域の人々の憩いの場所になっています。明治38年(1905)持田製糸工場の社主持田初治郎が寄付したこの土地は、招魂社と呼ばれ、西南の役から第2次世界大戦までの戦死者の忠魂碑、日露戦役で戦死した石井広助、中和田小学校初代校長の山田専成、2代目の校長山田豊次郎、持田初治郎の顕彰碑が立っています。

3 無量寺



帰命山長寿院無量寺は、『新編相模国風土記稿』には善如(承応2年(1653)寂)が開山とあり、寺伝では鎌倉安養院第19世深誉呑盡上人が文禄2年(1593)に開創したと伝えられています。また伝承では、初め他所に創建されたが、天災により倒壊したため、現在地に移転して再建されたと言われています。境内には、元徳年間(1329～32)の板碑が安置されています。

4 渡井家のイヌツゲ



「鎌倉道(藤沢八王子道)」沿いのイヌツゲの垣根は、昭和49年、市の名木古木に指定されました。イヌツゲの樹齢は240年ぐらいと言われていますが、現在のように整備されたのは、現当主の祖父のときです。近くの上飯田団地の西端に地域の鎮守神社、南端に小曲寺跡があります。

5 飯田神社



飯田神社は、境川沿いに多く見られるサバ神社の一社です。祭神は、左馬頭源義朝を主神に宇迦之御魂大神・大山咋大神です。伝承では、上飯田の柳明から寛文12年(1672)、現在地へ遷されたと言われています。神楽殿は、明治20年(1887)頃、飯田学校の校舎として使用されていました。境内からは縄文後期の注口土器が出土しました。

6 上飯田西公園



公園自体が広いので、子連れで遊ぶのにおすすめです。また、お弁当持参で行ってのんびりお昼を食べるのもいいでしょう。

7 本興寺



日蓮宗別格本山の寺で、鎌倉の本興寺が幕府の弾圧に遭い、万治3年(1660)、日蓮ゆかりのこの地に移転したと言われています。55代住職日感の時、現在の本堂が再建(明治4年・1871)されました。本堂の釈迦・日蓮・日什の一代記や七福神の彫刻は素晴らしいものです(非公開)。墓地には寺子屋師匠の筆子塚が3基あり、境内には中屋敷の鎮守さまである天満宮があります。

8 せせらぎ緑道



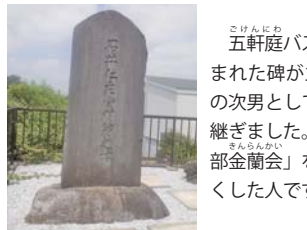
「鎌倉道(藤沢八王子道)」沿いに台村・坂の台・中屋敷・いちょう団地まで整備された道を「せせらぎ緑道」といい、地域の人々のやすらぎの場所になっています。また、本興寺から羽太郷土資料館付近の五軒庭プロムナード、上飯田と大和市上和田を結ぶ「ふれ逢い橋」は、地域交流の場となっています。

9 羽太郷土資料館



羽太郷土資料館は、羽太俊一氏(故人)が私財を投じて「鎌倉道(藤沢八王子道)」沿いの羽太氏の屋敷跡に開設しました。資料館はしばらく休業中でしたが、平成28年(2016)10月に再開を予定しています。資料館には泉区内外から寄贈された古民具などが数多く陳列されています。

10 石井仁左衛門翁之碑



五軒庭バス停の近くの墓地内に「石井仁左衛門翁之碑」と刻まれた碑が立っています。嘉永4年(1851)に、斎藤庄兵衛の次男として生まれ、石井家の養子となり、2代目仁左衛門を継ぎました。中和村村長や県議会議長を歴任するかわら「北部金蘭会」を組織し、農村を離れ自立していく青年の教育に尽くした人です。

11 柳明神社・観音堂(大石寺跡)



むかしここに観世音菩薩像を安置した大石寺がありました。明治初期に廃寺になったので、村境の伊勢山に祀ってあった神社をこの地に遷して、柳明の鎮守としました。その後、村に不幸が続いたため、阿久和の観音寺に預けていた観音像を戻して、境内の観音堂に安置しました。大石寺(現、観音堂)の観音像は、旧鎌倉郡三十三観音二十四番札所です。

12 地神塔(神奈川道・八王子道道標)



柳明神社脇に地神塔が立っています。春分・秋分の日に最も近い「戌の日」を社日としました。この日は、農作物の豊作を願って、仕事を休み、土地神を祀りました。地神塔は地神を信仰する仲間(講)により建てられました。この塔は、神奈川道・八王子道の道標にもなっています。

2 まぶた 験の母・ほしのや道コース（約6.0km）

～ 和泉川北部 静かな順礼の道を歩く ～

吉川英治や大仏次郎と並ぶ、横浜が生んだ小説家長谷川伸の代表作に『験の母』があります。長谷川伸は幼少のとき、家庭の事情で母と別れましたが、その後47年ぶりに、他家に嫁いで幸せな日々を送っていた験の母に再会を果たしました。当時の新聞はその再会を小説以上に奇遇であると報道しています。和泉町の横山家は、この長谷川伸の生母の生家です。横山家の前を通り、和泉川沿いを北上し、三家の日枝神社横を過ぎてさらに進むと、「ほしのや道」に出ます。この道は、坂東三十三観音十四番札所「弘明寺観音（弘明寺）」から八番札所「ほしのや観音（星谷寺）」（座間市）への順礼の道です。いまでは、道標だけが静かに昔を語り伝えてくれます。

1 佐婆神社とタブノキ



佐婆神社は、中之宮左馬神社、下和泉鱈神社と同じように、サバ神社の一社です。左馬頭源満仲のほこはほこでやひめのみこと 左馬頭源満仲のほこはほこでやひめのみこと 当時は、和泉川沿いに開けた水田を見下ろす高台に鎮座していました。佐婆神社周辺の字名「神田」は、神に供える米を栽培する水田からきているといわれています。境内のタブノキは、市の名木古木に指定されています。近くに、正法寺があります。

2 長谷川伸実母の生家「横山家」



『験の母』の作者として知られている長谷川伸は、和泉町出身の母「コウ」と横浜日の出町の長谷川寅之助の間に生まれました。その後コウは、事情により子をを残して離別し、京都の生糸問屋で神奈川の青木町在住の三谷宗兵衛と再婚しました。宗兵衛との間に生まれた子には、一高教授で神学者隆正、昭和天皇の侍従長隆信らがいます。

3 八幡神社



上和泉の宮西橋の近くに、土地の人々が「織部八幡」と呼ぶ八幡神社があり、汲沢の郷士森織部義秀が元亀年間（1570～73）に勧請（※）したといわれています。森織部義秀の子孫の繁春が書き表した『汲沢往来』によると、森氏は、寛文年間（1661～1673）に和泉村領主松平氏から13石を拝領（※）しています。八幡神社と森氏は、なんらかの関係があったと考えられます。
（※）勧請（かんじよう）：神や仏の霊をうつしてまつこと。
拝領（はいりよう）：目上の人からものをいただくこと。

4 日枝神社



和泉三家自治会の中心部に大山咋命・伊弉諾尊、伊弉冉尊を祀った日枝神社があります。大永6年（1526）、近江国一の宮の日吉大社を当地へ分祀したといわれ、和泉川沿いのこの地を開発し、新しい集落をつかった人々が勧請したのでしょう。境内には、第六天神社・御嶽神社があり、4月の春祭りには湯花神事、正月にはドンド焼きが行われています。

5 横山家のケヤキ



和泉町三家の横山家の屋敷内にあるケヤキの大木は、樹齢100年余、樹高16mの名木です。平成13年3月、市の名木古木指定を受けました。古くから町の象徴として親しまれ、故事来歴などのある樹木が指定されています。

6 ほしのや道



松陽高校正門前に「ほしのや道」の道標が立っています。これは、坂東三十三観音八番札所、座間の「ほしのや観音」への道標です。「ほしのや道」は、宮沢の六道の辻・松陽高校前・新橋小学校前を経て、現在の県道瀬谷柏尾線につながっています。江戸中期になると、庶民の間でも札所めぐりが盛んになり、順礼の道・暮らしの道として賑わったと思われます。

7 こどもログハウス（げんきっこ）・いずみ台公園



ログハウスでは、小さい子から小学生まで楽しく遊ぶことができる手作りおもちゃが沢山あり、「げんきっこまつり」、「クリスマス会」が行われています。また、いずみ台公園は桜もきれいで、グループで花見をするにもいい公園です。

ウォーキング コラム



1 ウォーキング前のチェック

習慣としてウォーキングの前に、「からだはだるくないか」「熱っぽくないか」「少し動くと息切れしないか」「めまいはないか」「腰や膝は痛くないか」「睡眠時間は十分だったか」「食欲はあるか」など、いつも通りかを確認しましょう。普段と違うところがあれば、無理をせず運動を止めておくことも大切です。また、水分を事前に補給しましょう。水分とタオルは携帯し、服は動きやすく、発汗性や吸湿性に優れたものを選びましょう。



1 鎌倉道・日蓮ゆかりのコース

地図  のルート

～ 上飯田 古の街道と史跡を訪ねて～

- スタート
いずみ中央駅 — ① 庚申塔 — ② 中和田公園 — ③ 無量寺 — ④ 渡井家のイヌツゲ — ⑤ 飯田神社 — ⑥ 上飯田西公園 — ⑦ 本興寺 — ⑧ せせらぎ緑道 — ⑨ 羽太郷土資料館 — ⑩ 石井仁左衛門翁之碑 — ⑪ 柳明神社・観音堂 — ⑫ 地神塔 — **上飯田車庫**
 ゴール



A-3 二十三夜塔
 月待行事は、十三夜・十五夜・十七夜・二十三夜・二十六夜など特定の日に、信仰する仲間（講）が集まり、飲食を共にしながら、月の出を待つ行事で、一番盛んに行われたのが二十三夜の月待（祭）であったようです。上飯田では二十三夜の月待が行われたのでしょう。



A-4 甲子塔
 上飯田町台村内会館前の鎌倉道沿いに「甲子塔」と刻まれた石碑が立っています。甲子日待は、甲子の夜、禍を転じて福を授けてくれる大黒様を祀り、夜おそくまで仲間（講）の人々が飲食を共にし語り合う行事です。日蓮が大黒様を信仰していたことから、日蓮宗の僧の指導のもとに、甲子日待が盛んに行われました。

C-4 神奈川県サッカー協会フットボールセンター（愛称：かもめパーク）
 かもめパークは、平成26年12月にオープンしました。敷地面積約2.7ヘクタールにサッカーグラウンド1面とフットサルコート2面、クラブハウスが整備され、グラウンドには、UEFA（欧州サッカー連盟）チャンピオンズリーグでも使用され、環境にも、選手にも優しい人工芝（イタルグリーン・ターフ）や省電力LED照明が採用されています。

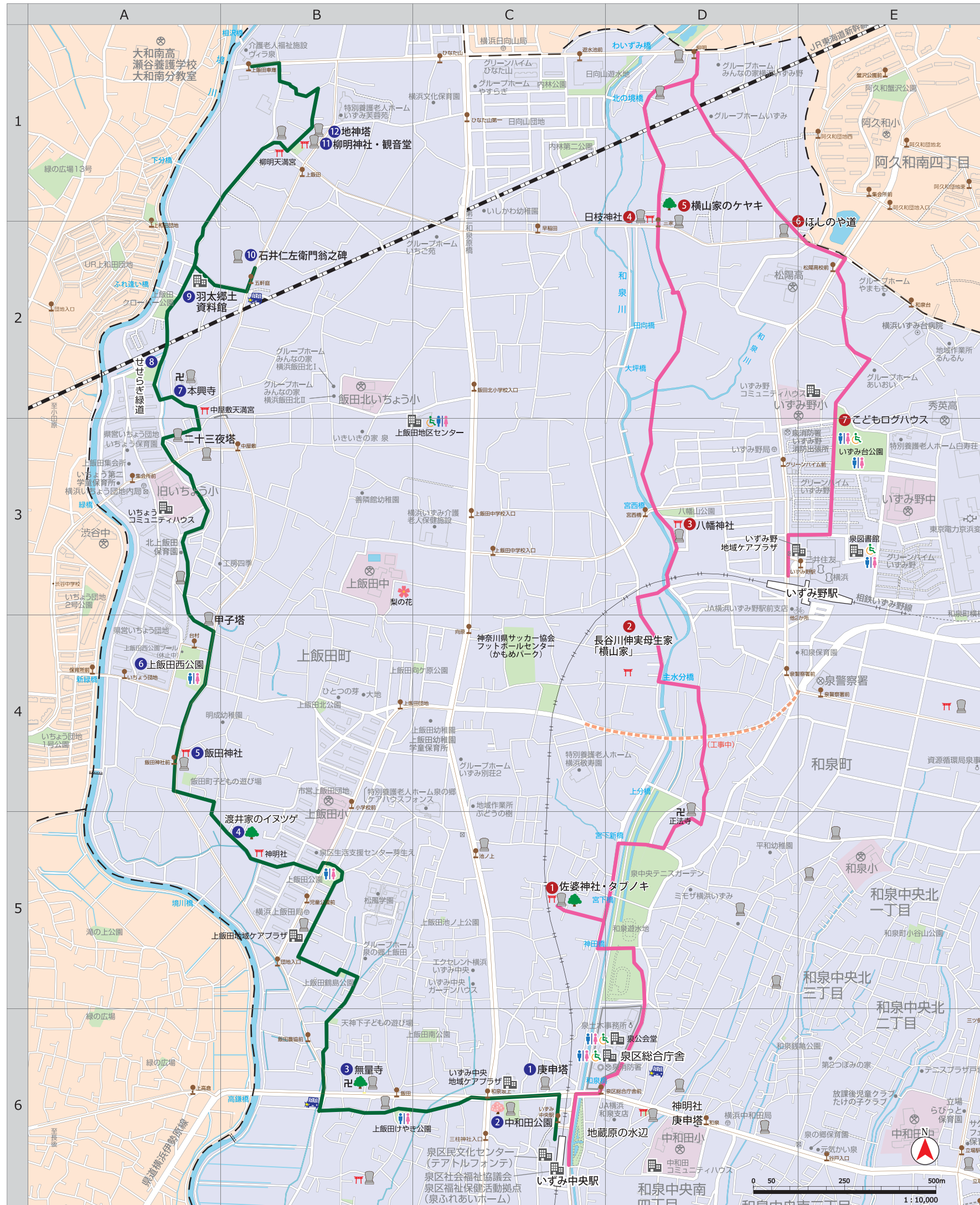


ウォーキングコラム

② 歩く時のポイント

自分が「ややきつい」と感じる強さで運動することで、安全に持久力を向上させることができます。

- ・ いつも歩いているよりも早めに
- ・ ちょっと息がはずむが、笑顔が保てる
- ・ 5分程度で汗ばむ
- ・ 少しずつ何回かにわけて、こまめに水分補給をしましょう。
- ・ めまい・冷や汗・吐き気・胸痛・息切れなど不調を感じたらウォーキングを中止しましょう。



2 険の母・ほしのや道コース

地図  のルート

～ 和泉川北部 静かな順礼の道歩く～

- スタート
いずみ中央駅 — 泉区役所・泉公会堂 — 和泉遊水地 — ① 佐婆神社 — 正法寺 — ② 長谷川伸実母の生家「横山家」 — ③ 八幡神社 — ④ 日枝神社 — ⑤ 横山家のケヤキ — 柳明バス停 — ⑥ ほしのや道 — 松陽高校 — ⑦ こどもログハウス・いずみ台公園 — **いずみ野駅**
 ゴール



小曲寺の阿弥陀様（1コース）
 むかし、今の上飯田団地の南端に、小曲家の菩提寺である鶴島山小曲寺がありました。江戸時代の末、この寺が廃寺になると決まった時、一族の人々は本尊の阿弥陀様をどうするか相談し、名瀬の西蓮寺に預けました。ところがある夜、阿弥陀様が一族の長の夢枕に立って「どんな粗末なお堂でもいいから元のところへ安置してほしい」と訴えたそうです。そこで、一族の長はさっそくみんなと相談してお堂を建て、阿弥陀様を西蓮寺からお迎えました。現在も団地の入口付近の墓地に、阿弥陀如来像を祀ったお堂があります。 — 「いずみいまむかし」 —

五軒庭（1コース）
 むかし、五代將軍綱吉が「生類憐みの令」を定めた頃、上飯田の柳明に五十石の土地を領する郷士の羽太忠兵衛がいました。当時この付近では、毎日猪が出て畑を荒らしていましたが、猪を殺すと厳しく罰せられるので、農民達は泣き寝入りしていました。そこで忠兵衛は意を決し、猪を台村付近の山林に追い込み、殺してしまいました。そのことが幕府に知れ、忠兵衛一家は全員処刑され、土地も没収されました。しかし、忠兵衛の義心を憐れんか、二十五石が払い下げられ、5軒の家で五石ずつ分けました。以後その辺を五軒庭と呼んだということです。 — 「中和田郷土誌」 —

大石寺の十一面観音（1コース）
 むかし、柳明に大石寺というお寺がありました。行基（奈良時代の僧）の作と伝えられる十一面観世音菩薩像を本尊とし、鎌倉郡観音三十三札所の二十四番札所としても有名で、よその村からも多くの人がお参りしていました。明治初期、無住寺になったとき、本尊の観世音菩薩像は新橋の観音寺に預けられました。その後、村に不幸な出来事がたびたび起きたために、村の人たちは相談して柳明神社の境内に観音堂を建て、その観世音菩薩像を安置したということです。 — 「中和田郷土誌」 —

3 飯田五郎家義コース（約4.6km）

～ 下飯田 古道の風情が残る地へ～

飯田五郎家義は、下飯田本郷を拠点に、この地域を開発し、飯田郷の地頭になったといわれています。こここの「鎌倉道（藤沢八王子道）」沿いには、曹洞宗の古刹東泉寺や飯田のこんぴら様として人々に親しまれた琴平神社、飯田五郎家義の館跡といわれている富士塚公園、左馬神社、相模の俳壇の中心的人物美濃口春鴻の生家美濃口家があり、古道の風情を今に残しています。一方、環状4号線沿いの地域は、市営地下鉄「下飯田駅」と相鉄いずみ野線「ゆめが丘駅」周辺の区画整理事業の進展により、新しいまちとして生まれ変わろうとしています。

1 三柱神社



この神社は、上飯田下組（現、上飯田南町）の地域内にあった三つの神社を大正元年（1912）に、移転合祀したものです。その三柱とは、菅原道真を祀る天神社、大山咋命を祀る日枝神社、豊受媛命を祀る神明社です。境内には庚申塔3基と蚕霊供養塔があります。庚申塔のうち文久元年（1861）造立のものは、大山道標を兼ねています。

2 蚕霊供養塔



三柱神社に「蚕霊神鎮座」と刻まれた碑が立っています。上飯田下組（現、上飯田南町）の地域の養蚕農家が建てた供養塔です。明治・大正・昭和初期、泉区域の村々では養蚕が盛んに行われ、農家の経済を支える大切な産業でした。同じ供養塔がJ A横浜和泉支店横の神明社前にも立っています。

3 鎌倉道・美濃口家



飯田の鎌倉道は「上（西）之道」と呼ばれ、新田・足利ゆかりの地や信濃方面と鎌倉を結ぶ重要な道でした。美濃口家は代々名主や村長を勤め、当家出身の春鴻は芭蕉の流れを汲む蕉門の俳人で、関係資料は横浜市地域有形文化財（歴史資料）になっています。（一般の家屋のため、門の中の見学はできません。）また、近くに持田・美濃口両家の氏神と伝えられる日枝社があります。

4 下飯田左馬神社



境川沿いに多く見られるサバ神社の神社です。祭神は左馬頭源義朝で、平安末期に飯田五郎家義が勧請したとも、小田原北条時代に領主川上藤兵衛が勧請したとも言われています。天正18年（1590）に領主となった筑前守助兵衛為春は地域の鎮守さまとして信仰し、社殿を修復しました。境内のイチョウは市指定の名木古木です。他に堅牢地神塔・庚申塔などがあります。

5 梨（小菅家）



市内各地で生産される梨は、「浜なし」として定着していますが、中でもこの小菅家はその草分け的存在と言われています。昭和16年（1941）から試みを開始し、「長十郎」「菊水」「旭」などの品種の改良を進め、昭和40年（1965）代からは「新水」「幸水」「豊水」の三水と呼ばれる品種を中心に生産し、現在に至っています。

6 富士塚公園



富士塚団地内に「富士塚城址」の石碑のある公園があります。この辺りは、源頼朝の危機を救った飯田五郎家義の館があったところと言われています。造成前には空堀の跡と思われる窪地やそれらしき地名も残っていました。また明治32年（1899）には五輪塔や納骨瓶が出土しました。当地の人々は、飯田氏の墳墓であろうと考え、近くに「古賢大菩薩」の碑を建て供養しました。

7 琴平神社



水難除け治水の守護神を祀った琴平神社は、江戸期には東泉寺が別当を務め、飯田の金毘羅様として親しまれてきました。明治2年（1869）の神仏分離令によって、大物主神と崇徳天皇を祭神とする琴平神社として独立しています。境内には天満宮、八坂神社などが祀られています。

8 東泉寺



以前は境川沿いにありましたが、度重なる水害で、天正18年（1590）頃、当地の領主旗本寛為が春によって移転されたと伝えられています。曹洞宗で鎌倉龍宝寺の末寺。山号を巨木山と称し、山門前の大イチョウは市の名木古木に指定されています。また、境内の薬師堂には飯田五郎家義の守本尊と伝えられる薬師如来像のほか、相模国準四国八十八ヶ所五十九番札所の弘法大師石像が安置されています。

9 みなみコミュニティハウス



この地は富士山、大山丹沢方面の眺めのよい場所で、先土器時代の石器が発掘されています。中和南小学校は、中和小学校の南分教場として親しまれてきましたが、昭和43年に独立しました。校内にある、みなみコミュニティハウスの郷土資料室には、古民具や歴史資料が数多く展示され、地域の文化交流の拠点となっています。

1 宮澤家の防風垣



現在は和泉川の西側に相鉄いずみ野線の高架線路があり、周辺の住宅も緩衝物になっていますが、開発前の和泉川沿いは水田が下流まで続いており、環状4号線方面からの西風も強かったはずですが、屋敷の防風垣としていつ頃この「もちの木」が植えられたのか、当主の宮澤弘氏も不明と言います。樹勢から2～300年は経ているでしょう。

2 長福寺・須賀神社



臨済宗天王山長福寺は、円覚寺末で本尊は釈迦牟尼仏です。泉小次郎親衛が道場として創建したと伝えられています。泉小次郎は、二代将軍源頼家の遺児千寿丸を擁して北条氏を打倒しようとしたが、その計画が事前に発覚し、逃亡したと伝えられています。隣の須賀神社は小次郎が鎮守神として祀った神社といわれています。

3 板碑



長福寺の境内に南北朝期の年代（1300年代）が記された板碑が立っています。泉中央公園を整備したとき、池のほとりから出土したものです。板碑は、石塔婆（※）の一種で、死者の追善（※）及び生前の逆修（※）供養の塔で、本興寺墓地・無量寺・密蔵院・東泉寺の宝物殿（非公開）などに多くあります。板碑は、泉区域の石造物では、最も古いものです。
（※）石塔婆（せきとうば）：石で作った供養塔
追善（ついぜん）：亡くなった人の冥福を祈ること。
逆修（ぎゃくしゅう）：生前にあらかじめ自分のために死後の冥福を祈ること。

4 泉小次郎親衛・殿墓・天王森コース（約6.7km）

～和泉川南部 水と緑の大パノラマと公園めぐり～

相鉄いずみ野線いずみ中央駅から和泉川沿いに南下すると、鎌倉時代の武将泉小次郎親衛伝承地の泉中央公園や、長福寺があります。ここからまた和泉川に沿って下ると、江戸期の和泉村の領主松平家の祈願所中之宮左馬神社、菩提寺宝心寺の殿墓で知られる松平家代々の墓、童心にかえて遊べる親水公園、密蔵院、下和泉鯖神社、明治から昭和初期にかけて栄えた製糸場の遺構がある天王森泉公園などがあります。この川沿いの道は、私たちの先祖の歴史を訪ねる道であり、境川遊水地公園などで、野鳥や草花が見られる水と緑の散歩道です。

4 泉中央公園



昭和61年秋、泉区誕生と同時に開園し、再整備により平成28年3月に再オープンしました。この地は鎌倉時代の武将泉小次郎親衛の館跡と伝えられています。遺構として、東側と南側に空堀と土塁が残っています。「小次郎馬洗いの池」は一年中湧き水が枯れたことがなく、昔は池の水を汲み干して雨乞いの願いをかけました。園内には、空充秋作の彫刻「門」があります。

5 中之宮左馬神社



祭神は左馬頭源満仲・天照皇大神で、中和泉地域の鎮守さまで。和泉川沿いに見られるサバ神社の一社で、源家隆盛の頃の勧請といわれています。寛永2年(1625)、和泉村の領主となった松平勝左衛門昌吉は、この神社を村の鎮守として再興し、能見松平家の累代の祈願所としました。総けやき造りの本殿は立派です。境内には木食観正碑・庚申塔・西南の役の忠魂碑などがあります。

6 宝心寺



和泉山松雲院と号し、本尊は阿弥陀仏です。もとは、泉小次郎親衛が菩提寺として建立した泉龍寺といわれ、子孫が絶え荒廃していたのを、慶安4年(1651)に領主の松平勝左衛門昌吉が浄土宗の寺として建立し、宝心寺としました。境内には和泉廻化地藏尊と岩舟地藏尊や庚申塔があり、参道入口には車塔が建っています。他に市指定の名木古木が立ち並んでいます。

7 松平家墓



宝心寺本堂裏の墓地内に「殿墓」と呼ばれる徳川時代の和泉村領主であった松平家の墓所があります。松平勝左衛門昌吉は能見松平家の6代目で、寛永2年(1625)、和泉村の領地を得て、慶安4年(1651)に三河国額田郡能見の観音寺から、父5代目庄右衛門昌利の墓を宝心寺に移し墓所としました。現在、墓所には6代目から15代目までの笠付角柱塔と宝篋印塔が立ち並んでいます。

8 和泉川親水広場



草木橋から関島橋の区間に、河川と一体化した広場として整備されています。和泉川を見ながら子供達も楽しく遊べる憩いの場所です。散策はもちろん、川に親しむ場所としてもおすすめです。昭和63年度には、「手づくり郷土賞」(国土交通省)に選ばれました。

9 四ツ谷の石仏



和泉川に架かる草木橋をわたると田園風景が広がります。近くに平安時代の住居址を中心とする草木遺跡があります。その先の三叉路に、一群の石仏が並べられています。宝篋印塔残欠(年代不明)、道祖神塔(明治3年・1870)、地藏庚申塔(寛文10年・1670)、出羽三山供養塔(文化2年・1805)、石祠(年代不明)などが見られます。

10 密蔵院



高野山真言宗で、開山は祐海法印(天文14年・1545年寂)、本尊は願行作とされる不動明王です。境内には貞和3年(1347)の板碑があり、石段下には文政4年(1821)建立の木食観正碑があります。ハクモクレンは有名で、3月彼岸の開花時には多くの参詣者の目を楽しませてくれています。環状4号線の道路工事により寺の所有地が広く提供されたため、境内や寺域の環境が大きく変わりました。

11 下和泉鯖神社



和泉川沿いに見られるサバ神社の一社です。祭神は左馬頭源満仲。慶長年間(1596～1615)、当地の郷土清水・鈴木両氏が氏神として勧請したといわれています。元禄2年(1689)に氏子の寄進による社殿修復の棟札(※)が残されています。神社のすぐ下あたりに、かつての清水製糸場があり、この工場で使用していた本館は、天王森泉公園に移築され、天王森泉館として使用されています。

(※) 棟札(むなふだ): 棟上げの時、工事の由緒、建築の年月日、建築者または工匠の名などを記して、棟木に打ち付ける札。多くは頭部が山形をしている。

12 天王森泉館・天王森泉公園



平成9年11月に開園し、天王森泉館を中心に昔ながらの原風景を残した緑豊かな、そしてホタルやワサビを育む豊富な湧き水のある公園です。天王森泉館は旧清水製糸場本館です。明治期に建てられた市内に残る唯一の製糸関連の遺構で、和泉・飯田・久和地区が一大製糸産業地であったことを偲ばせます。平成10年1月、横浜市認定歴史的建造物に選ばれました。

13 境川遊水地公園



境川遊水地公園は、泉区、戸塚区、藤沢市に位置し、境川の洪水被害を軽減させるための遊水地を平常時には公園として利用しています。野球・テニスなどのスポーツのほか、様々な生物の観察や水辺の風景を楽しむことができます。園内の情報センターでは、遊水地の仕組みやここで観察できる生物の紹介、発掘された貝化石などの展示がされています。また鷺舞橋は全長129mの片面吊り構造という珍しい吊り橋です。



3 飯田五郎家義コース

地図  のルート

～ 下飯田 古道の風情が残る地へ～

- スタート
いずみ中央駅 - ①三柱神社 - ②蚕霊供養塔 -
 ③鎌倉道・美濃口家 - ④下飯田左馬神社 - ⑤梨 -
 ⑥富士塚公園 - ⑦琴平神社 - ⑧東泉寺 -
 ⑨みなみコミュニティハウス - 下飯田駅 - **ゆめが丘駅**
 ゴール



泉区に伝わる
昔ばなし

キツネにだまされたお嫁さん (3コース)

大正時代のころ、和泉に嫁いできたばかりのお嫁さんが、飯田南町のお宅へ、お砂糖を届けに出かけました。中和泉の左馬神社を過ぎて、集会所(三柱神社)のあたりから、いくら歩いても、目指す家が見つかりません。どこにいるのかもわからなくなってしまい、通りかかった人に案内してもらって、ようやく目的の家につきました。包みは切れていましたが、お砂糖は無事でした。すっかり日がくれ、山の方でちょうちんの火がいくつもついたり消えたりしているのを見て、お嫁さんは、キツネにだまされたのかと感じ怖くなったということです。 - 「中和郷土誌」 -

東泉寺の薬師如来 (3コース)

むかし、鎌倉に幕府ができた頃の飯田に、武士の飯田五郎家義がいました。家義は下飯田左馬神社近くにお堂を建て、鎌倉の永福寺の薬師如来像を迎え、守り本尊としました。このお堂は、江戸時代に下飯田の領主、寛助兵衛為春によって東泉寺に移されました。明治の頃、盗賊が薬師如来像を盗みましたが、仏罰を恐れて、藤沢山の谷に捨ててしまいました。数日後、近くを通った村人が、草むらで光る薬師様を発見して、無事に戻ったということです。この像は空海上人(弘法大師)の作といわれ、眼病、安産、育児などにご利益があるとされています。 - 「中和郷土誌」ほか -

まんぢやらばばあ (4コース)

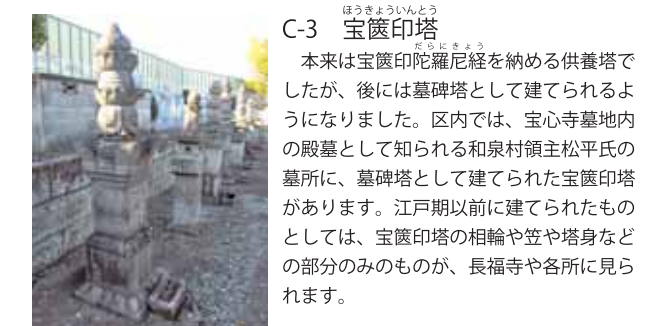
むかし、天王森泉公園の近くに、「どうじょうじ」というお寺があったそうです。ある年大地震があり、山が崩れて、お寺の鐘が谷戸に埋まってしまったそうです。その後、雨乞いでこの谷戸を掘り、鐘が見えると、大雨が降って埋まってしまうとされていました。明治後期頃からの雨乞いは、そばの「弁天様」の池で行ったそうです。また、「どうじょうじ」におばあさんがいて、風が吹いたり、何かあると、「まんぢやら、まんぢやら」と祈っていたので、天王森泉公園の付近は「まんぢやらばばあ」とも呼ばれたということです。 - 「中和郷土誌」 -

4 泉小次郎親衛・殿墓・天王森コース

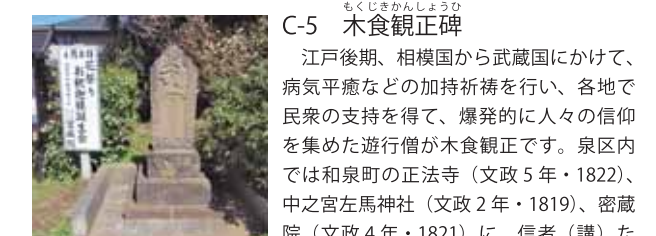
地図  のルート

～ 和泉川南部 水と緑の大パノラマと公園めぐり～

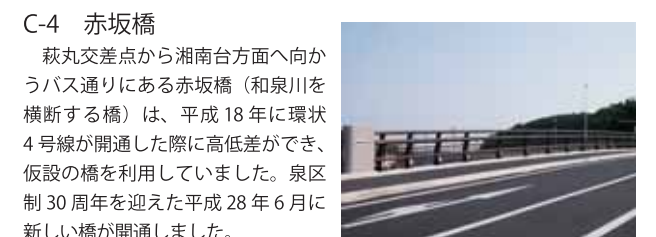
- スタート
いずみ中央駅 - ①宮澤家の防風垣 - ②長福寺・須賀神社 -
 ③板碑 - ④泉中央公園 - ⑤中之宮左馬神社 -
 ⑥宝心寺 - ⑦松平家墓 - ⑧和泉川親水広場 - 草木橋 -
 ⑨四ツ谷の石仏 - ⑩密蔵院 - ⑪下和泉鯖神社 -
 ⑫天王森泉館・天王森泉公園 - ⑬境川遊水地公園 -
 今飯橋 - 白鷺橋 - 富士塚公園 - 下飯田駅 - **ゆめが丘駅**
 ゴール



C-3 宝篋印塔
 本来は宝篋印陀羅尼經を納める供養塔でしたが、後には墓碑塔として建てられるようになりました。区内では、宝心寺墓地内の殿墓として知られる和泉村領主松平氏の墓所に、墓碑塔として建てられた宝篋印塔があります。江戸期以前に建てられたものとしては、宝篋印塔の相輪や笠や塔身などの部分のみのものが、長福寺や各所に見られます。



C-5 木食観正碑
 江戸後期、相模国から武蔵国にかけて、病氣平癒などの加持祈禱を行い、各地で民衆の支持を得て、爆発的に人々の信仰を集めた遊行僧が木食観正です。泉区内では和泉町の正法寺(文政5年・1822)、中之宮左馬神社(文政2年・1819)、密蔵院(文政4年・1821)に、信者(講)たちにより造立された木食観正碑があります。この碑から、木食観正は文政元年(1818)に小田原で活動を始め、2・3年後には、泉区域でも信仰が始まったと思われます。



C-4 赤坂橋

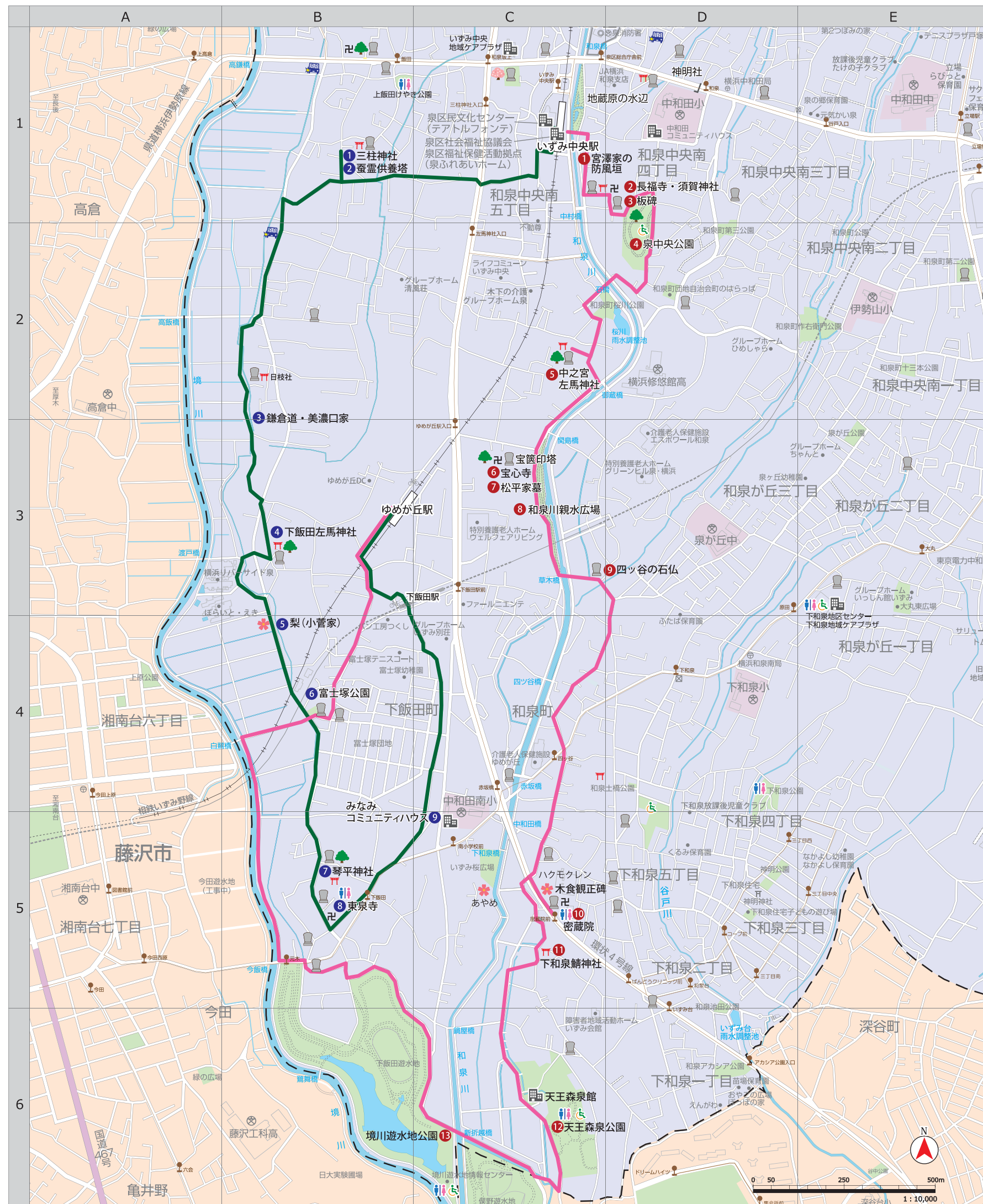
菰丸交差点から湘南台方面へ向かうバス通りにある赤坂橋(和泉川を横断する橋)は、平成18年に環状4号線が開通した際に高低差がで、仮設の橋を利用していました。泉区制30周年を迎えた平成28年6月に新しい橋が開通しました。



泉区に伝わる
昔ばなし

馬洗いの池 (4コース)

泉中央公園の中に四季を通じて涸れることのない池があります。古くから農家の人々は雨乞いの池として、神官や僧侶によるお清めのあと、水を汲み出し池を干して、降雨を願うという風習があったということです。この公園のある付近は、泉小次郎親衛の陣屋跡という言い伝えがあって、池は親衛が馬を洗ったところと言われ、「馬洗いの池」と呼ばれています。現在の池は公園の工事をした際に、原型を残すように周囲を石積みしています。この辺りには他にも、長福寺、須賀神社、神明社、瀧の前不動尊など親衛ゆかりとされるものが多数あります。 - 「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」 -



5 歌舞伎花十郎・横根稲荷コース (約3.7km)

～和泉・弥生台 広がる台地から富士を眺めて～

大山道の道標を兼ねた蚕霊供養塔のある神明社付近は、「柏尾通り大山道」と、戸塚・踊場・中田方面や葛野方面から来る「大山道」が合流する交通の要所で、中和田村役場などがあった中和田村の中心地でした。夏、子どもたちで賑わう地蔵原の水辺から「柏尾通り大山道」を弥生台方面へ行くと、農村歌舞伎で知られる市川花十郎の生家成田屋（現在はマンション・グリーンリポーズナリタ）があり、また、かつて地域の人々の娯楽だった「旗競馬」が行われた横根稲荷があります。この辺りからは富士山を始めとした山並みを一望できます。芝原バス停の近くには、「大山道」道標と「柏尾通り大山道」の案内板があります。そこからさらに、春には桜が咲き乱れる相鉄いずみ野線弥生台駅へと続きます。

1 地蔵原の水辺



ここは、2つの人工池を持つ親水公園で、春は桜を見ながらお弁当を食べたり、夏には小さい子供達が水遊びをしたりと多くの人で賑わっています。また、川沿いを散策するのもとても良い場所です。電車が通るのがよく見えるので、子連れで電車を見るだけでも楽しい場所です。

2 神明社



祭神は天照皇大神です。勧請年代は不明ですが、須賀神社と同様、建暦2年(1212)、泉次郎親衛が館を築いた折、その鬼門除け守護神として当社を勧請したと伝えられています。昭和10年(1935)11月、氏子の寄付により社殿が修復されています。神明社の隣には、農家の経済を支えた養蚕にちなんだ蚕霊供養塔(横浜市登録文化財)があります。

3 庚申塔 (神明社)



神明社の参道入口に庚申塔があります。庚申信仰は平安時代に道教の俗信から起り、仏教の青面金剛、帝釈天などの信仰と混交して成立したもので、庚申の夜はこれらの祭神を祀って徹夜でお祈りする風習がありました。区内の方で見られる庚申塔には道標や三猿の像が刻んであり、猿の表情はなかなかユーモラスです。

4 横根稲荷神社



横根稲荷神社は、和泉全域を氏子とし、また昔から「横根のいなり様」といわれて近郷住民や商人の信仰を集めてきました。さらに大山道に近いことから大山参りの人達も立ち寄り、旅の安全を祈願したといわれています。境内には巴御前が信濃に落ちて行く途中で化粧に用いたという「横根感念井戸」があります。

5 馬頭観世音塔 (横根稲荷神社)



横根稲荷神社の回りでは、昭和12年(1937)頃まで「旗競馬」が催されていました。廻り馬場で、農耕馬や荷馬車の馬を走らせました。近郷近在から集まった老若男女の見物人は、見せ物小屋や露店をひやかし、見合いの場所にもなっていました。馬頭観世音塔は、高座郡、鎌倉郡の荷馬車運送組合が建てたものなど数基あり、競馬に出た馬も供養されているのでしょう。

6 富士塚跡 (横根稲荷東側)



横根稲荷神社東側の場所は、標高約65m位の高台です。西を見れば遮るものはなく、富士山を中心に、右は大山、丹沢山塊、左に箱根連山が一望できるビューポイントです。ここにあった「富士塚」は信仰の対象として、また、この塚の上にあった航空灯台は名所として歌にまでなりましたが、いまは跡形もなく、バス停にその名を残すのみです。

7 柏尾通り大山道 (和泉小学校入口交差点)



戸塚区柏尾町の不動坂から岡津町・和泉町・上飯田町を経て大山へ向かう大山道は、「柏尾通り大山道」と呼ばれ、大山参詣の道であるとともに、内陸部とを結ぶ「くらしの道」として賑わいました。「かまくらみち」と大山道の交差する「和泉小学校入口交差点」(芝原)にある庚申塔には、東西南北の道しるべが彫ってあります。

8 桜 (弥生台駅)



相鉄いずみ野線弥生台駅のホーム横には、昭和51年の開業以降に植えられた約50本の桜が季節の彩りを添えています。桜は、長さおよそ200mのホームに平行した傾斜面に植えられており、毎年春には見事な花を咲かせます。

1 五霊社



県道の瀬谷・柏尾線を相模鉄道いずみ野線が高架で横断している高台に、この地域の鎮守さまである五霊社が祀られています。祭神は日本武尊一柱で永享3年(1431)に勧請されたといわれています。享和年間(1801～4)に社殿改修、文久元年(1861)に社殿を改築したと記された棟札が保存されています。現在の社は、昭和27年(1952)の火災後改築されたものです。

2 中丸家長屋門



明治時代中頃に建築された中丸家の長屋門は、平成13年度には、「横浜市認定歴史的建造物」に選ばれ、また、「中丸家長屋門とその周辺」が「横浜・人・まち・デザイン賞(まちなみ景観部門)」を受賞するなど泉区を代表する建築物です。

3 憩いのまほろば



川沿いの中丸家長屋門のたたずまいに河川の風景が融和するように、また、人々が憩えるように配慮して、あずまや・ベンチ等の休憩施設、車椅子利用者対応のトイレや広場も整備されています。阿久和川は平成5年の「まほろばの川づくりモデル事業」(国土交通省)に、全国に先駆けて認定され、整備されています。

4 観音寺



元和元年(1615)、阿久和村の領主であった徳川家康の家臣、安藤治右衛門正珍が、先祖の冥福を祈るために創建したといわれています。宗派は曹洞宗で、旧鎌倉郡観音三十三札所の二十三番札所です。本尊の聖観世音菩薩立像は、行基作と伝えられ、33年に一度御開帳を行う秘仏です。また、釈迦殿には、スリランカから送られた仏舎利と涅槃像が安置されています。

6 長屋門・武相国境の道コース (約 5.7km)

～ 新橋・緑園・池の谷 伝統文化の家並みと未来都市を行く ～

相鉄いずみ野線弥生台駅北口から坂を降りしばらく行くと、中丸家の長屋門があります。阿久和川沿いにある5つの「まほろば」は、人々の心に一時のやすらぎを与えてくれます。曹洞宗の古刹観音寺の前の橋を渡り、二俣川道の道標を兼ねた庚申塔の横を抜け、少し先の階段を登ると、緑園の街並みが目の前に開けます。池の谷と緑園の境の道を進むと、相模国と武蔵国の境の道「武相国境の道」に出ます。ここから、横浜市まちなみ景観賞を受賞した四季の径を通り、緑園須郷台公園・フェリス女学院大学などを経て、相鉄いずみ野線緑園都市駅に至ります。

5 神明社と大ヒノキ



むかし、神明谷戸といわれたこの地域の鎮守さまで、祭神は天照大神と国常立神の二柱を祀っており、鎌倉時代末期嘉元年間（1303～6）の創建と伝えられています。境内にある大ヒノキは幹の周囲が3.2mもあり、昭和49年（1974）に市の名木古木に指定されました。

6 山王神社



緑園三丁目にある地元の鎮守さまです。この神社の本社は比叡山山麓にある日吉大社で、大山咋神が祀られています。神社の周辺の地形は宅地開発により、すっかり変わってしまいましたが、神社は開発前から今と全く同じ場所、同じ高さに社がありました。また、境内には庚申塔、道祖神塔がひっそりと残っています。

7 相武国境の道の碑



泉区と旭区の境である緑園六丁目の角地に、昭和49年（1974）、地域の人が建てた武相国境の道の道標があります。この道標には「相武国境之道 南 相州鎌倉郡岡津村 北 武州都筑郡二俣川村」と刻まれています。この国境に沿って、古代より国境の道と呼ばれる道があり、細いながらも海と内陸部を結ぶ重要な道となっていました。

8 四季の径



緑園都市駅からこども自然公園に続く歩行者専用道路です。全体を春・夏・秋・冬のゾーンに分け、季節を彩る樹木を植え、四季にちなんだ絵タイルも施されています。各ゾーンのポイントには、三角広場、レンガタイル貼りの洒落たアーチ形陸橋、公園などが配置されています。平成元年度に横浜市まちなみ景観賞を受賞し、緑園のシンボリック存在となっています。

9 緑園須郷台公園



緑園六丁目にあり、四季の径沿いに設けられている公園です。公園内には、つたのからまるアーチ、古代ギリシャ風の円柱の立つ広場、絵タイルで星座の位置が表示された円形広場等があります。緑園都市駅までは遊歩道が続いており、安心して歩くことができます。公園から駅に向かっていくと、高台から電車が眺められるスポットもあります。

10 フェリス女学院大学・緑園キャンパス



フェリス女学院は、1870年（明治3年）にアメリカ改革派教会の宣教師メアリー・E・キダー（1834～1910）によって、キリスト教精神に基づいた日本最初の近代的女子教育機関として創設された歴史ある学校です。緑園キャンパスは、1988年（昭和63年）に開設されました。

11 インタージャンクションシティ



緑園都市駅の駅前大通り沿いにある商業街区です。建物間や内部に通抜けの通路をすることをルールとして造られた、ユニークな8つの建物から構成されています。いずれのビルも、吹き抜けや通路等を設け、光と風のふれあいのある開放感あふれる設計となっています。平成8年に横浜市まちなみ景観賞を受賞しています。

12 駅前広場の群像



緑園都市駅を中心とした、土地区画整理事業の完成を記念して、駅の東口広場に昭和62年（1987）に建てられた記念碑です。この記念碑は、台座部分が地区内の旧町名岡津町、新橋町、名瀬町の三町を表しています。人物像は、そこに住んでいた戸数46戸、約200名を表現しており、過去から現在、さらに未来へと続く都市と個人の歴史を「一筋の列」として作られたものです。

13 緑園都市駅



相鉄いずみ野線緑園都市駅は、昭和62年（1987）、新しい駅作りを推進するため、全国から「これからの駅」というキャッチフレーズで募集したアイデアをもとにつくられた駅舎です。多くの緑、明るい採光、現代建築ながら利用者をホッとさせる配慮を忘れないユニークな駅です。平成9年に「関東の駅百選」（国土交通省関東運輸局）に選ばれています。

ウォーキング コラム



3

健康づくりのために
今よりプラス10分
体を動かしましょう

10分多く歩くだけでも、1000歩、約20～30kcal消費できます。運動不足を解消し、メタボリックシンドロームや生活習慣病予防につながります。

<プラス10にするポイント>

- ・普段、電車やバスの区間を歩く
- ・買い物を少し遠くのスーパーマーケットまで歩く
- ・休日に家族や友人と外出を楽しみながら など

5 歌舞伎花十郎・横根稲荷コース

～和泉・弥生台 広がる台地から富士を眺めて～

地図 緑色のルート

スタート
1 いずみ中央駅 - 1 地藏原の水辺 - 2 神明社 - 3 庚申塔 - 4 横根稲荷神社 - 5 馬頭観世音塔 -

6 富士塚跡 - 芝原バス停 - 7 柏尾通り大街道 - 弥生台南公園 - 8 弥生台駅
ゴール

6 長屋門・武相国境の道コース

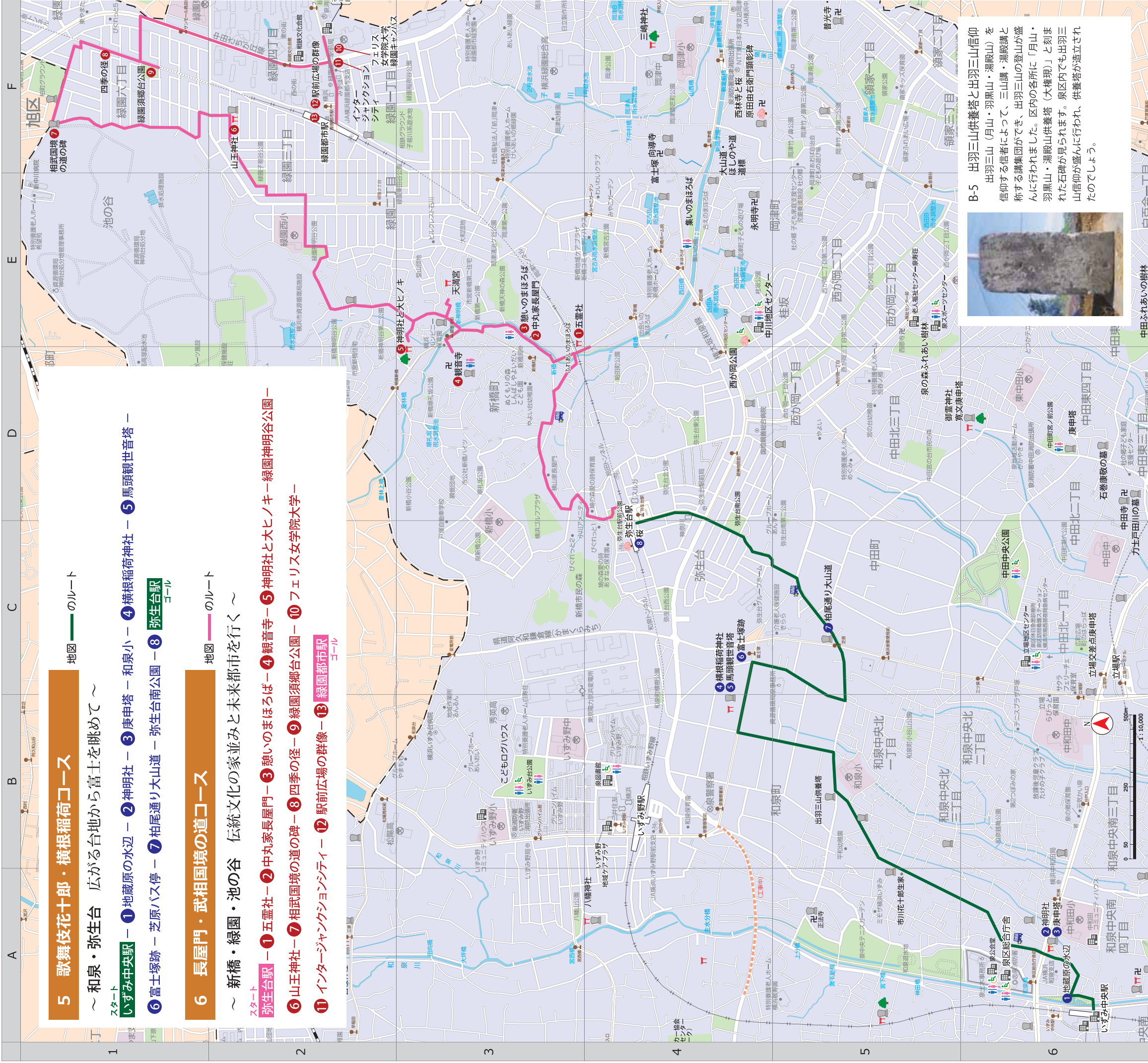
～新橋・緑園・池の谷 伝統文化の家並みと未来都市を行く～

地図 赤色のルート

スタート
弥生台駅 - 1 五霊社 - 2 中丸家長屋門 - 3 憩いのまほろば - 4 観音寺 - 5 神明社と大ヒノキ - 緑園神明谷公園 -

6 山王神社 - 7 相武国境の道の碑 - 8 四季の径 - 9 緑園須郷台公園 - 10 フェリス女学院大学 -

11 インタージャンクションジッティ - 12 駅前広場の群像 - 13 緑園都市駅
ゴール



5 歌舞伎花十郎・横根稲荷コース

～和泉・弥生台 広がる台地から富士を眺めて～

地図 緑色のルート

スタート
1 いずみ中央駅 - 1 地藏原の水辺 - 2 神明社 - 3 庚申塔 - 4 横根稲荷神社 - 5 馬頭観世音塔 -

6 富士塚跡 - 芝原バス停 - 7 柏尾通り大街道 - 弥生台南公園 - 8 弥生台駅
ゴール

6 長屋門・武相国境の道コース

～新橋・緑園・池の谷 伝統文化の家並みと未来都市を行く～

地図 赤色のルート

スタート
弥生台駅 - 1 五霊社 - 2 中丸家長屋門 - 3 憩いのまほろば - 4 観音寺 - 5 神明社と大ヒノキ - 緑園神明谷公園 -

6 山王神社 - 7 相武国境の道の碑 - 8 四季の径 - 9 緑園須郷台公園 - 10 フェリス女学院大学 -

11 インタージャンクションジッティ - 12 駅前広場の群像 - 13 緑園都市駅
ゴール



B-5 出羽三山供養塔と出羽三山信仰
出羽三山（月山・羽黒山・湯殿山）を信仰する信者によって、三山講・湯殿講と称する講集団ができ、出羽三山の登山が盛んに行われました。区内の各所に「月山・羽黒山・湯殿山供養塔（大権現）」と刻まれた石碑が見られます。泉区内でも出羽三山信仰が盛んに行われ、供養塔が造られたのでしよう。

市川花十郎と農村歌舞伎（5コース）

市川花十郎は、本名を石川芳太郎といい、義太夫を教えた竹本及太夫（石川友吉）の長男として、明治23年（1890）9月に生まれ、中和田尋常高等小学校を終えた後、16歳の頃から歌舞伎に身を入れました。その後、県内を代表する農村歌舞伎「市川花十郎一座」の座長になり、区内をはじめ県内各地を興行し、たいへんな好評を博しました。42歳の時、舞台で倒れ、その後歌舞伎から身を引き、昭和37年2月22日72歳で息を引き取りました。一座で子役などを務めた花十郎の養女石川三三氏（故人）は、花十郎が使っていた衣装や道具をはじめ、義太夫語りをしていた友吉の義太夫本等を横浜市教育委員会に寄贈し、現在横浜市歴史博物館に保存されています。

～「いずみいまいむかし」～



泉区に伝わる昔ばなし

横根の感念井戸（5コース）

むかし、木曾義仲の夫人、巴御前は女武者として義仲とともに勇名をさせていました。しかし、寿永3年（1184）に近江で義仲が敗れると捕われの身となり、和田義盛に引き取られて義盛の本拠地三浦で暮らすことになりました。そして建暦3年（1213）の合戦で義盛も敗れ、巴御前は木曾へと落ち延びてきました。途中、横根稲荷神社で一夜を過ごした巴御前は、境内にある鎌倉石と七沢石で囲われた古井戸の水を化粧の水として使ったと言われています。その後、この井戸は「横根の感念井戸」といわれるようになったということです。

～「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」～

ていきました。それが印象的だったので、誰ともなくこの坂を「鍵が坂」と呼ぶようになったということです。

～「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」～

順礼坂（6コース）

むかし、順礼たちが寺から寺をまわっていたころのことです。ある女順礼が坂にさしかかったとき、向こうから阿久和の領主が馬を走らせてきました。そして女順礼に近づくと、手に入れたいばかりの新しい刀を振り上げ、試し切りをしてみました。このことを知った土地の住人・豊右衛門はかわいそうに思い、殺された女順礼をねんごろに葬ったそうです。いつしかこれを伝え聞いた村人は、この坂を「順礼坂」と呼ぶようになったということです。

～「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」～

